

# 京町家の中核とした 未来の京都まちづくりプログラム

活動地域：上京区、宮城県名取市、福島県名取市、北海道富良野市

活動時期：平成16年4月～

大学・団体名：同志社女子大学

これまでの事業実施計画としては、申請計画にもあるように、以下の3つの目標と視点から推進してきた。

- ①京都の中心部の町家を活用した地域学習を通したまちづくり
- ②先進的なまちづくりを行っている北海道富良野において観光地域と中心市街地の両方を視座に置いた地域学習の推進
- ③東日本大震災での被災地域で進められている再生まちづくりの推進

こうした他地域での事例を通した学習成果を京都へとフィードバックさせながら、京都のまちづくりについて地域学習を展開し、京都の地域学習の深化をめざしている。

町家を通したまちづくり、町家講座の環境整備については、ハード面については補助金を活用しながら授業展開、地域住民との学習環境の整備を進めてきた。中核となる町家講座は、年間全8回の日程で実施してきた。さらに、社団法人紫式部顕彰会と協働する形で、源氏物語に関するプログラム（4月、12月、2018年6月）を実施し、京都の中心市街地における平安時代からの遺構の保存と活用についてワークショップを実施してきた。

授業との連携強化に関しては、全学にわたる学生の町家講座への幅広い参加を得るとともに、「京都フィールドワーク」等今出川・京田辺の二キャンパスにおける幅広い学生を対象とした京都に関する正規授業科目とも連携を強化することができた。

また日本女子大学・高雄科技大学（台湾）からの国内・海外協定留学生の参画（2017・2018年度）や京都大学をはじめ京都市内の他大学からの学生の参加など、高校生の視点・大学生の視点・地域住民の視点をふまえた交流会を行う（2017年度）など、地域連携を図りながら、大学の枠を超えて幅広い学生が学習する場を提供することができた。

こうした京都における学習成果を他地域においても発信する作業として、2018年2月3日に開催された町家講座においては、③東日本大震災での被災地域での被災地のまちづくりの現状と課題、そしてそこから見える京都への教訓について学生主体の講演を行い、2018年2月17日に開催された同志社女子大学大阪講座 講演会において、併設開催の形でポスター展示の発表を行い、地域の多くの参加者と交流・意見交換を行うことができた。講演会自体の準備や運営にも学生が積極的に参画し、京都における学習成果や、地域連携の実態を発信する活動を行ってきた。

さらに、北海道の先進的なまちづくりについても、夏季に実地学習を行うとともに多世代交流型まちづくりの実践を行っている現地の女性（同志社大学卒業生）を講師に迎え、学生や京都市で活動している方々も交えながら、北海道と共通する少子高齢化していく中心市街地のまちづくりの課題について話し合った。

共同でプログラム展開を行う団体：山中油店 京まちや平安宮

（一社）暮しステーション 北海道観光大使  
富良野まちづくり会社

